迷子の異世界放浪記

かめ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
迷子の異世界放浪記

【Ｎコード】
Ｎ０３２７Ｔ

【作者名】
かめ

【あらすじ】
ある日陸奥　神威は見知らぬ部屋で目を覚ます。
そこで知ったのはなんと三千年もの未来に来てしまったと云う真実？
謎の男ｍａｋｅｒとの取引により様々な平行世界に送られる神威。
果たして神威は無事に元の時代に帰る事が出来るのか？

プロローグ

はじめまして、かめといいます。なんとなく駄文を作ってみました。

注意！！この作品は作者の妄想で出来ています！

もしこんな事があったら、もしこんな方法が出来たら色々な悲劇を喜劇に変えられかもしれない。

そんな妄想の詰まった作品です。

……

……

迷子の異世界放浪記

プロローグ

始まります。

???「……此処は？」

……確か俺は…夜遅くまでゲームで遊んだ後、明日出かける準備をしてベッドに入って寝た筈……？

それがなんで……こんな小汚ない部屋にいるんだ？

部屋の大きさは八畳のフローリングで入口の右手にベッドが一台。

部屋の入口近くには無造作に積まれたゲームやガンダム関係の本。

入口から見て左手奥の方にはパソコンが一台乗った机が一つ。

机の上にはＤＶＤのようなディスクが多数乱雑に積んである。

その上この部屋には何故か窓が一つもない。

入口は鍵がかかっている。

俺は部屋を一通り物色してみて解った事は窓がない以外は普通の部屋だということだった。

それとパソコンは何故か何をしても全く起動しなかった。

？？？「……一体此処は何処なんだ？」

俺がパソコンをもう一度起動させようとしながらそう呟いた時入口の方から男の声がした。

○○○『此処は私の部屋で君は不法侵入の現行犯だと思うよ。』

慌てて入口の方を見ると何処にでも居そうな冴えない感じの中年の男が一人缶コーヒーを手に二つ持って立っていた。

？？？「おいっ！アンタが俺をこの部屋に連れ込んだんじゃないのか！？」

俺は男に掴み掛かりながらそう叫んだ！

……その筈だった…。

何故か体は動かずかろうじて声が出ただけだった。

○○○『……やれやれ、君は随分乱暴だなぁ～。』

男は呆れたような感じで肩をすくめて笑うと俺にベッドの方に座るように指示した。

すると俺の体は自然にベッドの端に腰かけていた。

○○○『……まずは君の事を教えてもらえないかな？』

男は俺の方に手を翳してそう呟くと男の周りに沢山のスクリーンのようなものが浮かび上がった。

○○○『…ふむ、君の名前は陸奥　神威、年齢は１５才、身長１７５？　体重５０？　か。なになに彼女いない歴１５年　部活は空手　実力は…ほぅ全国大会優勝経験か…。……それに適合者か……。いや実に興味深い。』

神威「おい、人の事を何勝手に調べてんだよっ！それにそのスクリーンみたいなやつは一体何なんだよっ！大体お前一体誰なんだよ！」

○○○『あぁ、済まないね。此処は私の寝室であり趣味の部屋だな。

そして私はｍａｋｅｒあらゆる平行世界の監視者の一人だ。』

神威「はあっ？お前それあからさまに偽名だろ。それに平行世界の監視者って頭沸いてんじゃねぇのか？」

ｍａｋｅｒ『君も随分と口が悪いな。まぁ確かにいきなりそんな事を聞いたらそう思うのが普通の反応だな。しかし先程君の行動を制限したり君の目の前にスクリーンを出したりしたのは現実なんだがね。』

神威「…そ、それは多分何かのトリックに決まってる！そんな事より俺を早く家に帰せ！この変態、犯罪者！」

ｍａｋｅｒ『……はぁ、君の言うことも解らなくはないけれど……それは無理だな。いやこれは君自身が一人で解決しなければならない事なんだよ。私が出来るのは君に帰る為の道をある程度示しこのドアを開ける事だけだ。』

神威「何が俺自身が解決しなければならない事なんだよ！いきなりそんな事言われても訳わかんねぇよ！」

ｍａｋｅｒ『あぁ、確かに訳がわからないだろうね。しかし君に拒否権はない。というより拒否した場合は君の存在は全ての平行世界から抹消される事となる。それが〔ルール〕なんだよ。』

男はスクリーンのようなものの一枚を大きく広げ説明を始めた。

ｍａｋｅｒ『この世界の日付は西暦５０２１年５月４日現在１４時２８分。しかし君の生年月日は２００６年１２月２３日いわゆる今より約３０００年も昔の人間となる。

この時代はあらゆる分野が成長し過ぎて異空間や次元世界果ては平行世界まで人類は進出している。それが正しいのかは解らないがね。まぁそれは別の事としてその結果平行世界で異変が起きた際に対応する部署が現在私の働いている所になる。
その仕事はまぁそれなりに危険な仕事なんだよ。その為この部屋は一般家庭よりは高いセキュリティを設置している訳だ。
そのセキュリティの一つにこの部屋に入った存在の行動を部屋の主つまりは私の任意で制限出来る仕様になっている訳だ。
その為先程君が私に危害を加えようとしても体が動かなかったという事だ。それに対しては申し訳ないと思うけど、お互いに無駄な労力を使わないで済んだと思ってもらえたら幸いだ。此処からが本題になる訳だが今すぐ君を元の世界に送り返す事は、技術的には可能だ。
しかしこの時代は空気中に様々なナノマシンが散布されているその為別の時代の人間がこの時代に流れ着いた場合一時間以内に元の時代に送り返す事となっている。何故ならそれ以上ナノマシンを吸収した場合…　肉体的にかなりの変化が起きる。
例えば４４口径の銃弾で零距離で頭を打たれたとして普通なら即死だがこのナノマシンを吸収した別の時代の人間の場合はかすり傷にすらならない。
その為元の時代にそのまま送り返すとかなりの割合で問題が発生する訳だ。……ではそうなってしまった場合はどうするかというとその存在そのものをなかった事にする。
いわば君のデータから算出される様々な要因、例えば家族に少しずつ介入し君という存在をなかった事にする。
その手段として最悪は殺人すら許容される場合もある。しかし、その為には多大な費用と人員が必要となる訳だ。そこで一つ君に提案がある。
今から様々な技能を身に付けてもらい、こちらの指定するいくつかの平行世界に行ってもらい、その平行世界の様々な問題を解決して

もらいたい。
勿論、その条件を飲んでくれるなら私の方から君に出来る限りの協力をさせてもらう。どうだい？悪い話じゃないと思うけど。』

神威「……一つだけ質問がある。もしその条件を飲んで何処かの平行世界に行ったとしてその際の俺の命の保証はあるのか？……後、俺が身に付ける事が出来る技能はどんな技能があるんだ？」

ｍａｋｅｒ『一つ目の君の命の保証は問題ない。君自身の肉体は平行世界へ移動する際こちらに保存される事になる。その代わりこちらで用意した肉体もしくは精神体で移動してもらう。二つ目の君の習得可能な技能はこの書類を確認してほしい。』

そういうとｍａｋｅｒは俺にＡ４サイズの何枚かの書類を手渡した。

そしてその書類を確認すると……。

神威「……おい、この書類に書いてある事は本当なのか？」

ｍａｋｅｒ『あぁ、その通りだ。』

神威「何なんだよっ！これはっ！型月の技能（直死の魔眼、十二の試練、直感、黄金率、仕切り直し……）、ガンダム（ＮＴ、ＳＥＥＤ、ガンダムファイター、東方不敗流格闘技、……）、ナルト（白眼、射輪眼、忍術、……）、リリカルなのは（リンカーコア、マルチタスク、聖王の鎧、……）って、これほとんど漫画やアニメの技術とかじゃねぇかよ！」

ｍａｋｅｒ『やれやれ、仕方ないだろう。君が理解出来てかつ使い

こなす事が出来る技能がその書類の技能だったんだからね。それでは聞くけど、君はカバラの秘術とか小乗仏教の経文が理解出来るかね？』

神威「……げっ、何なんだよ……そのバカラとかショウジョウバエとか。」

ｍａｋｅｒ『カバラの秘術だ。古代の呪術の一つだよ。小乗仏教とは真言宗等の呪法等の母体にあたる宗教の事だ。やはり、君には理解出来なかったみたいだね。』

神威「……仕方ないだろ。今までそんな呪術とか勉強する機会がなかったんだからよ！それより技能はどうやって取得するんだよ。」

ｍａｋｅｒ『おや、君はこの条件を飲んでくれるのか？』

神威「……仕方ねぇだろ。その条件飲まなきゃ元の時代に帰れないって事だろ。だったらやってやるさ。さっさと終わらして元の時代に戻る！……必ずな。」

ｍａｋｅｒ『よろしい、なら私は君の事を全力でサポートするとしよう。まず、技能は君のアストラル体いわゆる君の魂に上書きする。そしてアストラル体のみの移動の場合は簡易転送装置を使用する。又、肉体を持って行く場合は特殊な転送装置を使用する。しかし肉体を持っての移動はコストが高い為、通常は余り使用しない　。以上で質問はないかね。』

神威「あぁ、ただ最初に移動する平行世界はどんな世界なのかわかる限り教えてほしい。」

ｍａｋｅｒ『よろしい、神威君。君が最初に移動する平行世界は昭和５０年頃の日本の一地方だ。そこで起こるであろう悲劇を事前に防いでもらいたい。』

神威「……ちょっと待て。そこはもしかして雛見沢とか云うんじゃねぇだろうな？」

ｍａｋｅｒ『あぁ、その雛見沢とか云う所だが何か？もしかして君の居た時代に何かあったのかね？しかし変だなこの世界に雛見沢は存在しない地名なんだが、神威君は何か知っているかね？』

神威「……いやなんて云うか俺の居た時代でその雛見沢の悲劇がゲームや小説になってんだけど。しかしマジかよ、リアルひぐらしの鳴く頃　かよ…。気を付けねぇと即死亡の世界だなぁ。んで俺はどんな状況で向こうの世界に行く予定なんだ？」

ｍａｋｅｒ『あぁ、神威君はたしか古手家の長男に転生する予定だ。』

神威「はあっ！？古手家ぇ？うわぁいきなり死亡フラグ満載の家かよ…。まぁ梨花ちゃまと身内になれるのは嬉しいかな♪しかしどんな技能を身に付けて行けば良いんだよ。」

ｍａｋｅｒ『まぁ最初の世界だし私の方からいくつかの技能を用意しておこう。まぁ、そうだなぁ。サイヤ人の身体能力（しっぽ無し）、ウイルス・寄生虫対応のナノマシンに横島忠夫の霊能力の３つを基本能力で私の方から君のアストラル体に登録しておこう。後は何か必要な技能もしくはアイテムはあるかな？』

神威「あぁ、確かにそれだけあれば簡単に死ぬ事はないな。でも少

し足りないな。出来ればＦＦ　シリーズのアイテム全種類無制限で向こうに用意出来ないか？」

ｍａｋｅｒ『まぁ大丈夫だと思うが何故ＦＦ　シリーズのアイテム全種類なのかね？』

神威「あぁいくつかのアイテムを《東京》に流す。そして雛見沢症候群の研究よりこっちのアイテムの方が有効だと思わせる。ポーションとかなら頑張ればある程度は解析出来るかもしれないだろ。そしたら金の掛かる雛見沢症候群よりかは《東京》の興味を惹く事間違いなしだからな。」

ｍａｋｅｒ『それなら別に全種類無制限じゃなくても良いだろう？何故全種類無制限なのかね？』

神威「あぁ、ただでさえ誰が死んでもおかしくない世界だからな。どんな状況でも生き残る事が出来るからな。出来れば、死人は少ない方が良いに決まってる。」

ｍａｋｅｒ『まぁ確かにあの世界はかなり危険な世界だからな。判った。こちらで用意しておこう。』

神威「……ちょっと待て。なんであの世界がかなり危険な世界だと知っているんだよ？」

ｍａｋｅｒ『あぁそれは以前類似した世界に他の者を送った際にその者の強い希望で特に技能を登録せずに送った所あっさり殺された為だな。』

神威「……そいつは何を考えていたんだ？」

ｍａｋｅｒ『さぁ少なくとも神威君よりは考えてない事は間違いないな。』

神威「……まぁ良い。とりあえず雛見沢に送ってくれ。」

ｍａｋｅｒ『了解。ただしアストラル体のみの移動なので赤ちゃんから始める事になるが構わないかね？まぁ答えは聞いてないがね。では頑張ってくれよ。』

神威「ちょっ…おまっ…。」

俺は眠るように意識を失った……。

チクショウ覚えてろよ！

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n0327t/

迷子の異世界放浪記

2011年10月8日03時53分発行